



いのちかがやく京都市動物園構想 2020 京都市動物園 120周年に寄せて 「私と京都市動物園」

京都市動物園は、令和5年4月1日に開園120年の節目を迎えました。
120周年に寄せて、京都市動物園の名誉園長であり、世界的なゴリラ研究の第一人者として知られる山極寿一さんと、日本動物園水族館協会会長で、京都市動物園との関りも深い村田浩一さんに、お祝いのメッセージとともに当園との思い出を語っていただきました。

京都市動物園と京都大学

開園120周年誠にありがとうございます。昨年創立125周年を迎えた京都大学も同じような歴史を歩んできました。両方とも日本で2番目に設立され、京都市民の熱い支援によって支えられてきたからです。1934年には京都大学理学部動物学の教授であった川村多實二先生が京都市立記念動物園長に就任されています。2008年に京都大学野生動物研究センターを立ち上げた際にも京都市動物園と連携協定を結び、種の保存と環境教育を実践する場として協力してきました。現在、生き物・学び・研究センターとして活躍しています。私が京都大学総長だった2015年には京都市動物園、京都府立植物園、京都水族館の連携協定が結ばれ、私は相談役となって地球のかけがえのない生態系について保全と学びの取り組みを実施してきました。翌年には京都市青少年科学センターが加わり、未来の世代に伝えるかけがえのない学びの場として



木登り上手なニシローランドゴリラ



京都市動物園でのJICA研修

で推進して行くことになりました。京都市動物園はゴリラの三代にわたる繁殖と飼育で有名です。さらに生息地に近い環境を作るうと飼育担当だった長尾充徳さんといっしょにJICAの事業でガボンの熱帯雨林を視察し、京都市動物園でガボン人研究者の飼育実習をしていただいたのは懐かしい思い出です。おかげで、ゴリラの樹上の動きを活かした今のゴリラ舎ができましたし、ゲントロウやキンタロウも生まれてゴリラの平和な家族生活を見られるようになりました。ガボンでもゴリラを主たる対象としたエコツーリズムが始まりました。京都大学のフィールド研究者を始めとして、多くの若い世代が野生動物たちの生息地で調査を重ね、最



京都市動物園でゴリラの健康診断研修(2010年)

山極 寿一 さん

総合地球環境学研究所(地球研) 所長
京都市動物園名誉園長
第26代京都大学総長を務め、現在は総合地球環境学研究所所長に就任。令和3年2月からは京都市動物園の名誉園長に就任。世界的に著名なゴリラ研究の第一人者。



村田 浩一 さん

よこはま動物園ズーラシア園長
公益社団法人日本動物園水族館協会会長
神戸市生まれ。博士(獣医学)。神戸市立王子動物園獣医師、日本大学生物資源科学部教授、日本野生動物医学学会会長、世界動物保健機構(WOAH)委員などを歴任。



王子動物園時代のコアラと私



王子動物園から離職する際のお別れ会に集まってくれた動物園の仲間たち(京都市動物園からも駆けつけてくれました)

ティを学んだことは、私の動物園人生の中で大切な財産となっています。そして忘れられないのは、1995年1月17日に発生した阪神・淡路大震災の時に、交通網が分断されているにも関わらず、動物の餌や職員のための救援物資をトラックで運んで来てくれたこと。思い出たびに涙が流れます。ありがとうございました。

近では動物たちの新しい知見がたくさん集まりつつあります。この節目にこういった知識を生かしつつ、動物園が野生動物の世界のぞく窓として発展して行くことを大いに期待しています。

動物園に必要なことを京都市ZOOから学んだ

開園120周年おめでとうございます。

私が動物園で働き始めたのは1978年で、それまでは保健所で働いていました。大学では主に牛や馬や犬など家畜の健康に関わる獣医学を学び、卒業後は人間の健康に関わる公衆衛生の仕事に関わっていたため、動物園や動物園動物の専門的知識が皆無に近い状態で動物園へ異動したわけです。毎日、悩み苦しき迷いながら仕事をしている様子を上司が心配してくれたのか、京都市動物園での研修を提案してくれました。目的は鳥類の染色体検査技術を学ぶこと。当時、京都市動物園では鳥類性判別のための先進的な取り組みを行っていたからです。

毎日、T獣医師から懇切丁寧な技術指導を受けながら、合間には飼育係の人たちとも交流して動物の飼育方を教えてもらいました。そしてその日の実習が終わると四条河原町で宴会！京都市動物園の120年にわたる歴史を背景とした動物園動物に対する技術や知識や情報やホスピタリ

楽しく学べるイベントで世界を広げてくださいませんか

副園長 和田 晴太郎

気づきを与えられる 楽しい企画を。

今では毎週末にイベントが開催され、SNS等で積極的に情報発信を行っています。この流れは100周年記念事業以降から始まりました。当時、100周年記念イベントの企画運営に携わったことを思い出しながら、現在の状況を考えると、格段に進化したと感じています。そして、種の保全や動物福祉、SDGsなどを学び、気づいていただけのきっかけとなる企画も出来るようになってきました。120周年を機に、さらに取組を充実させていきたいと思っています。

動物らしい幸せってなんだろう

アカゲザル担当 新美 圭汰

動物福祉の向上を！

昨年の11月に「サル島」で飼育していた12頭のアカゲザルを全て類人猿舎に移動させました。「サル島」は、昭和12年に建てられ、改修しながら使用してきましたが、温暖化の影響もあり、場所によっては50℃以上になることもあります。そこで、緑豊かな放飼場と冷暖房完備の屋内展示室を備えた類人猿舎に引っ越しました。最初は新しい環境に緊張していましたが、今では樹木を食べたり、餌を探索したり、のんびり暮らしています。

こんな動物園にしてゆけど！！

2023年の所信表明 ～動物園の現場より～

動物の心と体の健康状態を「見える化」したい。

動物とのよりよい関わり方を一緒に考えてみませんか

ヤギの唾液採取 チンパンジーの行動観察



生き物・学び・研究センター 山梨 裕美

動物と関わるうえで、動物福祉(動物の心と体の状態)に配慮することが、動物園でも大切になっています。しかし、動物は言葉を話さないので、動物にとって十分な飼育環境が提供できているのかがなかなかかわからず、時にもどかしいこともあります。わたしは動物の行動や生理指標などをもとに、動物福祉を評価することやそのための新しい手法を開発することを行っています。動物について冷静に話し合うためには、こうした研究が欠かせないと思っています。

絶滅の危機から救うためにできることをがんばる！



ツシヤママネコ担当 瀬尾 亮太

野生での現状を伝えていく。

動物園にいる動物種の多くは絶滅の危機に瀕しています。彼らを守っていくためには生息地での保全活動がうまくいく必要があります。また、動物園の動物たちが幸せに暮らせるようにすることだけではなく、野生で生きている動物たちも幸せに暮らせるようにしていかなければなりません。そのためには野生での暮らしや保全活動に関する情報をもっと発信し、みなさんともなになっていくことを考え、保全活動に貢献できる動物園を目指していきたいです。



毎年10月に行われる「やまねこ博覧会」では、ホットな生息地の情報を伝えます。

動物が協力してくれればすばいことだと思いませんか



獣医師 山田 早希

動物の健康管理に努める。

すき間から尻尾を出してくれるから採血の時に、お互い安全。ごはんを食べている間に体のチェックや採血ができる。



動物園では簡単には近づいたりできず診察が困難な動物も多いです。そんな動物たちの健康状態を把握するため、あるいは近づいて診察を行えるようにするために飼育担当は動物のトレーニングを行っています。私も獣医師としてトレーニングに積極的に参加することで、動物たちとの関係を構築し、日々の健康管理に活かしたり、必要な時に治療を行えるようにしています。これからも動物と飼育担当と協力して健康管理に取り組んでいきたいと思っています！

京都市動物園が 目指す姿

目指したのは動物園に暮らす動物たちが幸せに生きられること(動物福祉)。そしてその動物たちが繁殖して世代を重ね、動物園の個体群として維持されること(種の保存)です。京都市動物園では調査や研究を進め、市民の皆さんに成果を伝えていきます。そして、自然のいのちのつながりについて共に考えていきたいと思っています。